

3人4脚



R 3. 7/20(火) 第5号
二宮西中学校学校だより
発行者:和田 智司

夏休みこそ分岐点!!

～計画なくして成功なし～

“おもしろくて やがてかなしき なつやすみ”・・・何度経験しても、意気込んで迎えながらむなしく去っていくのを見送る。そして後には追いつめられた忙しさだけが残ってむやみに寂しい秋を迎える。このような残念な夏休みを送る人が毎年います。

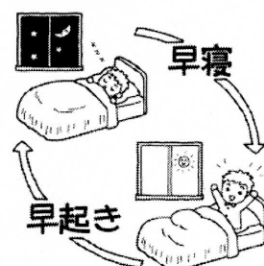
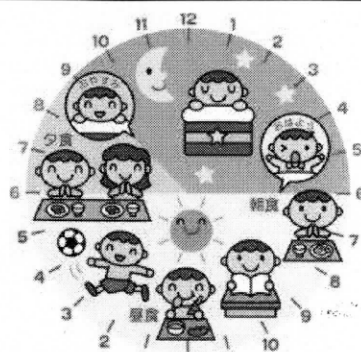
しっかりとした無理のない計画を立てることこそ夏を制するための第一歩です。子どもたちには「夏休みの生活(計画と実践)」を配布してあります。担任からも伝えましたが、40日間の長期にわたる計画を自分自身で立てよう保護者の方からもご指導していただけたらありがたいです。充実した夏休みを送るためのポイントは次の2つであると私は考えています。

① 具体的な目標を持たせる。

*夏休みを充実させるために、柱になる目標をしっかりと持たせる。

② 早寝早起きを心掛けさせる。

*朝寝坊は大敵、生活習慣の乱れは起床時間から始まる。



自らが振り返られるアドバイスをお願いします!

～夏休みは本格的な「ノーチャイム生活」です～

個々面談でお子さんの1学期の学習成績をお伝えしましたが、成績というどうしても各教科の1～5の評定に注目が集まり、結果主義になりがちです。しかし、お子さんの成績は、この1学期間の積み重ねであるわけです。教科ごとに、観点別の評価が出ていますので、ぜひ教科ごとの観点に目を向けて良かった点、改良すべき点を子ども自らが反省し、2学期に活かせるようなアドバイスをお願いいたします。

なお、本日お渡ししました通信票の中に「令和3年度 通信票をご覧ください」が入っています。(1)【観点別学習状況について】、(2)【評定について】(3)【総合的な学習の時間の記録について】、(4)【出欠の記録について】、(5)【学校生活を振り返ってについて】、(6)【特別活動の記録について】、(7)【受賞・資格の記録について】、(8)【特別の教科道徳について】、(9)【学校から家庭への通信について】、の9つの見方等が記載されていますので、ぜひともご一読ください。

そして、この1学期間の生活面にしっかりと目を向けることも大切です。学校での様子、家庭での様子を互いに情報共有し、お子さんの良いところを見つめ、その良いところを励まし伸ばしてあげられるようにすることが何よりも大切であると思います。

本校では全学年でこの1学期間におけるクラスメイトの良いところを探し、それを伝える「いいところ調べ」を実施しました。どのようないいところをクラスメイトは書いてくれたのか。ぜひお子さんに書いてもらった「いいところ」をお読みになってください。

夏休みは本格的な「ノーチャイム生活」です。何でもいいですから、「これだけはやった。」と思えるような具体的な柱をお子さんと共に考えていただきますようお願いします。もちろんその柱は子ども自身が考えた柱でなければすぐに折れてしまいます。よきアドバイスを重ねてお願いいたします。一方この1学期間、無欠席だったとしたら、それはとても素晴らしいことです。ぜひ、ほめてあげていただきたいと思います。



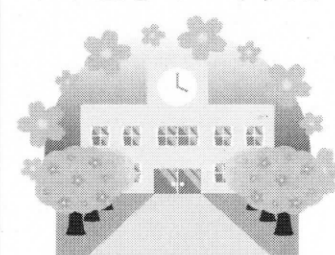
『こころをみがく』に包含された「心」について考える。

前回の「確かな学力」に続き、今回は2つ目の「心」。特に『豊かな心の育成』についてここで考えてみたいと思います。

「学力」同様「心」もまた形として目に見えにくいものですから、「これを心ととらえる」と定義づけすることで皆さんと学校教育目標を共有したいと思います。もちろん「心」の定義については、心理学者や脳科学者など立場が違ふと考え方も違ふため、「これが正解!」と定めることは困難です。ですから、二宮西中学校の学校教育目標でいう「心」について定義することから始めたいと思います。

中学校では平成31年度(令和元年度)から「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」となり、新たな一歩を踏み出しました。4/9(金)発行の「3人4脚:第1号」に『道徳の授業を充実させ、これを要としながら、あらゆる教育活動を通じて「豊かな心」を育てます』と明記しましたが、あらゆる教育活動でこの「心」の育成を図りたいと考えています。

少しかたい話になりますが、教育基本法第一条には、教育の目的として「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と規定されています。この「人格の完成」の基盤となるのが道徳教育です。人間観、世界観など、人として他者と関わり生きていくうえで必要なことがこの中に凝縮されています。



私たち大人が「勉強しなさい」といくら言っても子どもがそうしないのは、心が「勉強しよう」と働きかけてくれないからです。私たちは、自分の中にいる「もう一人の自分」の声に従って行動すると言われるのはこのためです。また、満開の桜を見て「きれいだなあ」と感じるのは、心が動く「感情」によるものです。

この「もう一人の自分」や「感情」といった、自分の内面にあって行動や感情を左右するものが「心」だと言えます。生徒たちが大人になって社会を動かす役割を担う何年後かを見据えたとき、自分の力で生きていくために必要な力を生み出せるもとなるのが「心」の在り様だと考えられます。

では、行動や感情を左右する「心」を育てるにはどうしたらいいのでしょうか。・・・科学技術が進歩してどれほど便利な世の中になっても、人は決して一人きりで生きていくことはできません。家庭や学校、地域社会など多くの人たちのおかげで支えられていることを自覚することがまず大切なことです。

このことを大切にしていれば、いつかは自分自身のなにげない日常に隠されている「数々のありがたいこと」に気づいて、自然に「感謝の心」が沸き起こるのではないのでしょうか。またこのことはやがて「自分も他の人々の力になりたい」という気持ちに自然に昇華していくものです。

物事を感謝の気持ちで受け止める「心の受信力」そして他の人々への具体的な思いやりの行為につながる「心の発信力」。・・・私たち一人ひとりが自然にこうした態度がとれるようになることは、心豊かな社会を築くための原動力になります。また、そうした社会の中でこそ、自分自身の安心な生活が保証され、「喜びの多い人生」の実現が可能になります。そうした意味であらゆる教育活動を通じて道徳性を高めること、つまり『豊かな心』の育成を図ることがますます重要になってきます。

次回は「学・心・命」の3つの柱の3つ目の「命」についてお伝えします。

※1年生と私との校長面接をほぼ終えることができました。・・・夏休み中に3年生との面接を行います。あらかじめ記述してもらった面接プリントをもとに面接を行っています。1年生とは5分間。3年生とは8分間という短い時間ですが、生徒たちとの面接はとても楽しいです!

